南米の旅 （その3 アルゼンチン編）

■２０１４年２月１６日（日） サンチアゴからメンドーサへ

バスの旅も慣れればそれほど大変ではない。時間がかかり体力的に厳しいのは費用との関係で止むおえないが、バスの旅はそれはそれで楽しい。バスで行けばサンチアゴ～メンドーサも４，０００円くらいなのだから、バスは本当に安上がりだ。

発車の３０分くらい前にターミナルに行き、出発前トランクに荷物を積んで乗り込めばいい。

私は慣れないので余裕を見て出発１時間前くらいにはターミナルに着くようにしているが、勝手がわかっていれば出発直前でもいい。荷物の積み方にもコツがあり、みな先を争って入れようとするが、目的地に着いてバスを下りるとき、先に入れた荷物は奥の方にあるので出すのが遅くなってしまう。

飛行機だと２時間くらい前に空港に着いていないと心配だがその点はバスの方に分がある。

モーニングコールを６時半にしておいたが５時半には目が覚め、メールの返信やNさんのブログを見ていた。Nさんはリマからイカを経由して、今アレキパにいるようだ。街にあるいろいろなもののデザインやディテールに興味を持ち、日本人的感覚（彼女独特の感性かも知れないが）で見て面白いと思った写真をたくさん載せている。旅と同時にブログも楽しんで発信しているところがいい。

バスターミナルまで地下鉄で行こうと７時にはホテルを出たが、何と地下鉄の入り口のシャッターが閉まっている。仕方なくタクシーで行くことにしたが、タクシー運転手の話では、地下鉄は９時からでないと動かないのだという。日曜日だからだろうか？まさか平日はそんなことはないだろう。

そんなことでターミナルには７：１５分には着いてしまった。早すぎてしまったが遅れるよりはいい。まだ外は寒いので中で待つ。建物の中は売り場ばかりで椅子がなく、大勢の人が直に通路に座っている。

フランス人？の女性５人のグループ

しばらくして発車の２２番乗り場に行く。旅慣れた感じのフランス人らしい女性ばかり５人ほどのグループが、冷たいコンクリートの上に車座になって待っている。５人もいれば何かと心強いことだろう。

結局バスは３０分ほど遅れて出発。

バスの座席は、前方の１０席ほどがファーストクラスといった感じの席 Cama（カマ）があり、その後ろの席がすべて Semi-Cama（セミカマ）になっている。セミカマでもかなりの角度リクライニングできて充分である。

サンチアゴ～メンドーサ 走り始めの景色

席は満席で人気の路線ということがわかる。バスには運転手のほかに説明や世話をしてくれる係員が一人乗り込んでいる。

走り始めると、しばらく灌木の茂る低い山が続いた。徐々に山が高くなり、山肌が荒々しく緑がだんだんと減ってくる。２時間ほど走ると、遠くに頂上に雪を被った峰が見えてくるようになった。緑はスッカリなくなり、岩がゴロゴロした荒々しい山が次から次へと姿

サンチアゴ～メンドーサ 急勾配の登攀道路

を現してきた。そして突然ストップ。長時間全く動かないので不思議に思っていると、ここから先の山登りの区間は１車線になっていて、アルゼンチン側から来た車を先に通過させていたのだった。

上の方から大型のトラックが次々と下りてくる。そして３０分ほど経ってやっと動き始めた。ここからは曲がりくねった急勾配の登攀道路をエンジンを全開にして登っていく。その様子を動画に納めたが面白い映像が撮れたと思う。頂上付近で長いトンネルに入り、それを抜けてしばらく行くとチリとアルゼンチンの国境である。

チリ側国境

一旦全ての荷物をバスから降ろす。外は寒かったが半袖でも何とか我慢できた。バスは乗客が多いので全員の手続が終わるまでにかなり時間がかかる。

チリの窓口で出国スタンプをもらい、係員から荷物の検査を受ける。かなり厳しくバッグの持ち物を検められた。次にアルゼンチンの窓口で入国審査を受けてやっと終了。結局この国境越えに２時間もかかったのだった。

バスに戻りしばらく行くとアルゼンチンの国旗が風に靡いているのが見え、やっとアルゼンチンに入国したことを実感。ここからバスは徐々に山を下りていく。

国境付近の景色（チリ側）

アルゼンチンに入ってからも絶景は続き、次から次と雪を被った峰が現れた。この素晴らしい景色が見られるのでこのルートは人気なのだ。どこを取っても絶景といえる素晴らしさだ。

同乗の客たちの多くはリクライニングをフルに倒して寝入っているが、彼らにとって見慣れている景色なのだろうか？

徐々に高度が下がり、大きな真っ青な湖と雪があったり、表現できないほどの美しさだ。高度が下がってくると緑が現れ始め、山は少しずつ低くなり形も穏やかになってくる。そしてやがて背の高い針葉樹が現れ、時々人家が見えるようになり人の住む地域に入る。

アルゼンチン側国境

バスは４時半にメンドーサのバスターミナルに到着。これから暫くアルゼンチンでの生活が始まる。

ここはサンチアゴより少し標高が高いので、夏といっても涼しい。

バスターミナル内で１００ドルをアルゼンチンペソに交換すると１，１００ペソ（１ペソ９.８円）だった。‘１２～‘１３年版地球の歩き方では、１ドル４.１アルゼンチンペソ（１ペソ２６.３円）だったが、今はその時に比べて１／３になっているのだった。これほど差があるのはアルゼンチンに経済危機があり、アルゼンチン通貨がドルに対して急落したためだろう。

国の経済政策がいかに大切かということを身に染みて感じる。バスターミナルからホテルまでタクシー

で約１５分、料金は２３０円ほどだ。
　ホテルにチェックインし荷物を置いてすぐに街に出る。明日のアンデス高地ツアーの申し込みをするためだ。旅行会社に行く途中にサンマルティン公園があった。たくさんの露店が店開きしていて、いかにもアルゼンチンらしい凝ったデザインの小物を売っている店があった。
　ツアー会社でアンデスツアーを申込む。２５ドルだった。明朝７時半にホテルに迎えに来てくれる。
　サンマルティン通りをのんびり散策する。ワインを買いたいが栓抜きがないのでシャンパンを買った。シャンパンなら栓抜きなしでよい。
　メンドーサの街は緑が多く、道路の両側に街路樹がずっと続いている。今回のホテルは、これまでの中で値段の割にとてもグレードが高い。これも通貨レートのせいだろうか？広い部屋，大きなバスタブと冷蔵庫付きで大満足。久しぶりにゆっくり風呂に浸かることができるのは嬉しい。
　メンドーサ、、、街の規模はそれほど大きくなく、ワインが安く、治安はよさそうでとても気に入った。

メンドーサの街（緑が多い）

■２０１４年２月１７日（月）　メンドーサ・アンデス高地ツアー
　念のためモーニングコールを６時半に頼んだが、５時半に目が覚めた。昨日口にしたのは水少しのみで、何も食べていないので少しフラフラする。そのお陰か、腹の調子は回復したようだ。
　今日のアンデス高地ツアーに行く体力が心配だが、７時半に１階ホールに下りていく。もう朝食の用意ができ食べられるということなので、迎えのバスが来るまでの間にクロワッサンとミルクコーヒーの朝食。久しぶりのフルーツがうまかった。このくらい食べておけば少しは体力の足しになるだろう。今日一日腹の調子が逆戻りしないでほしい。
　迎えのバスは８時１５分になってやっと来た。アンデス高地ツアーは合計１８名だった。
　すべてアルゼンチン人のようで、外国人は私一人だけだ。昨日チリからアンデスを越えてアルゼンチンに入って来た逆のルートを辿りチリ国境近くまで行く。
　走り始めるとすぐにアンデス山脈の遠景が見られた。マイクロバスはスピードを速めながらどんどん進む。今日はツアー料金が２５ドルと格安のためか朝食は含まれていない。

メンドーサ郊外の湖

アンデス山脈遠景

　しばらく進んで朝食タイムになったが、朝ホテルで食べてきたのでココアを飲むだけにした。バスは徐々に高度を上げ、急流の流れる Puente Picheuta（プエンテ・ピチェウタ：ピチェウタ橋）で小休止。ここはサンマルティン将軍の率いる軍隊が行軍したルートにあたる。
　そこからしばらく行きスキー場に到着、リフトで山の中腹まで上がり眺望を楽しむ。このリフトもオプションだ。最近絶景ばかり見ているので感動が薄れてしまっている。空気は冷たく太陽の光は暖

リフトで丘の中腹まで登る

上から見る谷間の景色

かく本当に清々しくて気持がいい。

次は南米最高峰のアコンカグアが見えるポイントで、この付近ではこの場所からしか見えないという。標高６，９６０ｍとは思えないほどすぐそこにあるように見えるのは、我々の立っている場所の標高が高いからだ。南米最高峰というだけで何か有難いと思ってしまう。

南米大陸最高峰アコンカグア 6,960m

次はチリ国境にある El Cristo Redentor (エル・クリスト・レデントール：救世主キリスト) という場所。ここには両国の終戦を記念して両軍の大砲を溶かして造ったというキリスト像がある。キリスト像を中心にアルゼンチンとチリの国旗がはためいている。

ここの海抜は４，１００ｍあり息苦しい。それに強風が吹き荒れとても寒い。自然環境の厳しいところでは国どうしがいさかいを起こす余裕はなく、融和し協力して厳しい自然と調和して生きていこうという気持ちが大切だと思う。

大砲を溶かして造ったキリスト像

昼食のとき、ブエノスアイレスから来たという初老の夫婦と話をした。

二人はブエノス～メンドーサ往復２，０００ペソ（日本円で約２万円）という切符で来たとのこと。私が二日後に乗る切符よりずいぶん安い。

夫の Gorge（ホルヘ）は一人の私に配慮し写真をよく撮ってくれた。妻は Susana（スサーナ）という。ちょうど雰囲気がペペとマリ（セビリアの友人夫婦）に似ている。

ホルヘは牛皮製造の仕事をしている。スサーナは普通の主婦である。数日後にブエノスからウルグアイに行くと言ったら、ブエノスではどこに行くのか、何泊するのか、その先はどこに行くのかなどいろいろ質問され、話しているうちに打ち解けてきた。モンテビデオはとても美しい街のようだ。

ブエノスアイレスから来たという夫婦

現地ツアーに参加するといろいろな人と話すことができていいのだが、私のスペイン語はまだまだなので言いたいことの１／３も言えないのがも

どかしい。

硫黄が固まってできた橋（インカの橋）

ツアーの最後は、インカの橋という噴き出した温泉に含まれる硫黄などが固まって自然にできた橋が見られる場所だ。自然にできたとはとても思えないほど大きな橋だった。どのように橋ができたかを説明するパネルがあったがとても読みきれない。

ツアーの仲間

スーパーに並ぶたくさんのワイン

皆疲れていたようで早々に切り上げて一路メンドーサに戻る。メンドーサまでは相当距離があり、かなりのスピードで走っても２時間以上かかり午後７時半にやっと着いた。ちょうど１２時間の長いツアーだった。

■２０１４年２月１８日（火） メンドーサ

今日は一日メンドーサ市内でのんびり過ごそうと思う。

朝８時起床、腹の具合は上向いてきている。朝食はパンとハム，チーズ，ミルクコーヒーとフルーツ。空港のカウンターで提示する、予約フライトの e チケットの印刷をホテルに頼む。メールでデータを送ってくれればいいということで、５つのフライトをすべて印刷してもらった。

フロントで「グローリアの丘」に行きたいと言うと、タクシーを呼び地図でホテルとの位置関係を説明してくれた。

９時ホテルを出る。丘の登り口まで結構距離があり、そこからくねった坂を回りながら上っていく。帰りはこの道を歩いて帰るつもりだが、本当に帰って来ることができるか少し心配になった。

グローリアの丘からの眺め

観光スポットだから時々タクシーも通るだろう。

いざとなったらタクシーで帰って来ればよい。

サンマルティン将軍の像

ホテルから丘の頂上までタクシーで１５分だった。頂上には馬に乗ったサンマルティン将軍の立派な像がある。台座部分の彫刻もとても凝った立派なものだ。

階段のところで一人の太った女性がトレーニングウエア姿で上り下りしていた。何日か前に高地に行ったら、呼吸が苦しくなり運動の

必要性を感じトレーニングをしているのだという。

まだ時間が早いせいか頂上の広場は閑散としていた。

１０時、とにかく歩けるところまで歩こうと思い坂を下り始める。イロハ坂のような曲がりくねった坂なので下る高さに比べて距離はある。途中自転車で、嬌声を発しながら猛スピードで下っていく若者がいた。手を上げて挨拶すると同じように手を上げて返してくれた。

サボテンの１種？

歩きながら観察するといろいろ変わった植物がある。種類がとても豊富である。珍しい植物を見つけるとどんどん写真に撮った。

道の分岐点で“モニュメント”と書かれた方向を選び、建物が密集している中心街方向の写真を撮りながら徐々に下っていく。対向する丘の斜面を使って、サッカークラブだろうか若者たちが声を掛けながら坂道トレーニングをしていて、この暑い中大変だろうなぁと思いやった。

何という植物だろう？

途中から木がなくなりカンカン照りの太陽が頭に照り付ける。昨日帽子を失くしてしまったのが悔やまれる。丘を下ると、予想していたのとは異なり自動車専用道路のような道に出た。ここで方向を間違ってしまうと大変なので、誰かに確認しようと思うが人は誰もいない。

しばらくして、たまたま通りかかったランニング中の女性二人に街の中心方向を訊くと、今向かっている方向で良いと教えてくれた。二人は先に行ったが、少し先で道が二股に分かれていたので、気にかけて振り向きながら右側の道を行きなさいと教えて去って行った。親切な人たちだった。

サン・マルティン公園内の木陰道

教えてもらいやっと地図で現在地を確認でき、ずっとこの道を行けばいいということがわかった。とにかく歩けるところまで歩こう。

これまで随分長距離を歩いたので、その経験とスタミナがこんなところで活かされることになった。

歩いても歩いてもなかなか目印になる施設などが地図と一致しないので不安になったが、しばらく行くとこの道路が「リベルタドール通り」ということがわかり、やっと中心街との距離が掴めた。現在地はまだサンマルティン公園の中だった。この公園がいかに広大な公園かが分かる。地図で見ても市街地の 1/5 くらいの面積があるのだ。この道路は並木道になっていて木陰が多く、歩いていて清々しい気分になる。道の両側には公園の緑が延々と続いている。

ずっと歩いてきたので汗だくになった。さらに進むとやっと公園の入り口にたどり着いた。ここからは道路の名前がエミリオ・シビット通りと変わり、さらに進むと徐々に店なども現れ始めベルグーラーノ通りと交差するところまで来て中心部に入った。

メンドーサ中心街（チョコレート専門店）

メンドーサ中心街（ショーウインド）

歩いていてガイドブックの最初に載っていたレストラン「ラ・フロレンシア」を見つけた。まだ１１時半ころで準備中だった。昼食は２時ころがピークなのだ。

ペルーからチリに入って時計を２時間進めたが、私の感じではペルー時間の方が自分の慣れた時間感覚に近いように思う。チリとアルゼンチンは夏時間では時差がないので、朝８時といっても街の様子は日本の早朝６時頃の感じである。

ラ・フロレンシアから３ブロックも行くと、Plaza de Independencia（プラサ・デ・インデペンデンシア：独立広場）に着いた。結局１時間５０分全て歩いてしまったことになる。

長時間歩いて汗をかいたので歩道のイスに座ってビールを飲む。隣の店でサンドイッチを買って昼食がわりにしようと思ったが、せっかく腹の具合が良くなったのでレストランで食事しようとラ・フロレンシアに行く。時刻は午後２時を回っていて店はとても混雑していた。

レストラン　フロレンシア

歩道に並べられたテーブルは満席。ようやく店内の席に座れ、しばらく待って注文を取りに来た。Sopa de Verduras（ソパ・デ・ベルドゥーラス：野菜のスープ）と Gamba con Ajillo（ガンバ・コン・アヒージョ：エビのニンニク入りスープ）を注文。ワインはトラピチェのマルベックの小ビンを頼んだ。

野菜スープはカボチャ主体のスープだった。薄味でカボチャの自然な甘みが口に合った。エビのアヒージョはオリーブオイルとニンニクで煮込んだもので濃厚、納得の味だった。

エビのアヒージョ

久しぶりに旨い料理を楽しんだ。高級レストランは味は勿論だが、ウエイターのマナーも気持ちいい。

ワインはマルベック独特のドスの効いた味で料理にぴったりだった。１時間余りのゆったりとした食事を終えホテルに戻る。

今日はメンドーサで休息の一日としたので、あとはホテルでのんびり過ごす。

夜になり昨日のアンデス高地ツアーのマイクロバスの中で聴いたＣＤを買いに行く。

ツアーガイドにグループ名とＣＤのタイトルをメモに書いてもらっていた。そのグループは Los Nocheros（ロス・ノチェーロス）といい、仲良くなったフロントのおじさんにＣＤショップを教えてもらい買ってきた。ロス・ノチェーロスのＣＤは２枚あり２枚とも買った。

中央市場

ホテルに戻る途中で Mercado Central（メルカード・セントラル：中央市場）を見つけた。

間口は狭いが奥行きがとても広く、肉，野菜，乾物，惣菜，軽食堂などいろいろな店があり、見ていて飽きることがない。イチゴが山盛りに積まれているのを見て買いたくなったが、食べすぎるとまた腹が逆戻りすると困るので我慢した。

２０時を過ぎると、通りに人があふれ街は俄然活気づいて来た。

■２０１４年２月１９日（水） メンドーサからブエノスアイレス経由モンテビデオへ

今日は６時１５分発の便に乗らなくてはならない。ホテルのフロントに訊いたところ、２時間前に空港に着いておく必要があるということで、午前３時に起き４時に空港に到着した。

受付カウンターはアルゼンチン航空とＬＡＮ航空のみで、６時５分発のアルゼンチン航空の便はすでにチェックインが始まっていた。しかし、６時１５分発のＬＡＮ航空便は一向にチェックインが始まる気配がない。何人かの乗客が“なぜだろう？”という表情でイライラしながら待っている。

これでは早起きして２時間前に来た甲斐がない。そんな中、５時少し前になってやっと準備が始まった。

カウンターの前は長い列ができ、手続きが終わって待合ロビーに入ったのは出発の３０分前だった。これでも余裕で便には間に合うのだが、それなら２時間前でなくても１時間前でも大丈夫ということだ。あと１時間寝ていられたということを考えると何とかして欲しいと思う。

飛行機に乗ってから気付いたのだが、メンドーサ→ブエノスアイレスは国内線だから市の中心部に近いアエロパルケ空港に着くはずだ。そしてブエノスアイレス→モンテビデオの距離は近いが国際線だからエセイサ空港から出発するのではないか？チケットを確認したところ、その通りということが分かった。

気付くのが遅かったが、アエロパルケ到着７：５５分、エセイサ発１１：００だから結果的には乗継時間には問題ないことが分かって一安心。ただ、空港間移動のためのタクシー代がかかる。

メンドーサ→ブエノスアイレス（アルゼンチン中央部上空）

メンドーサを飛び立つとしばらくは褐色の大地が続くが、途中から豊かな緑が見えるようになった。雲も多く、湿度の高い地域に入ったことが分かる。

快適なフライトでブエノスには予定通りに到着。荷物もスムーズに出てきた。エセイサへの移動手段だが、バス，コレクティーボとも２８０から２９０ペソ程度と安いが、出発時刻を訊くと９時とのこと。

まだ出発まで４０分以上あり、これでは乗継が厳しい。先払いタクシーなら１０分ほどで出発するという。飛行機に乗り遅れると厄介なので料金は高いが先払いタクシーがいいだろう。料金は３２０ペソとのことだが、ペソの手持ちが少ないのでドルで支払うと高速道路代を含め４６ドルにもなってしまった。

カウンターに表示してあった１＄＝７.６９とは何だろう？アルゼンチンペソの対ドルレートが変わったのか？

アエロパルケ空港

この旅で、ブエノスアイレスに来て初めて雨に遭った。これまでは乾燥地帯を旅して来たので全く雨が降らなかったのだ。タクシーは猛スピードで走り９時ちょうどにエセイサ国際空港に着いた。

出発２時間前である。日本でいうなら羽田について成田に移動するといったようなものだ。こういう点で大都市とは結構大変なのである。同一空港と勘違いして乗継時間に余裕を取っておかないと接続便に間に合わなくなってしまう。

航空会社はBuque-Bus（ブケ・ブス） Airlineといい、もとはバスかフェリー会社として出発した会社が飛行機を運行するようになったらしい。小さな会社なのでチェックインカウンターが分からず何度か訊いてやっと見つかった。

出発ゲートでは中国人３人組が大声で話している。何かの商談に来たのだろうが、遠く離れたウルグアイまで何のビジネスだろう？携帯で話すときの足の組み方など、態度があまり良くなく傍若無人といった感じ。そして、目の前では空港の若い女性係員がモップで床を拭いているが、その同じモップでソファの上も拭いている。常識的に考えられないが、そのあたりの神経は日本人と違うのかもしれない。

再度ｅチケットを確認すると、ブエノス（エセイサ）→モンテビデオ→ブエノス（アエロパルケ）とな

っている。往きはエセイサからでも還りはアエロパルケなのだ。なぜ往復で違う空港なのだろう。
　ブケブス航空 209 便はプロペラ機で、自分としては本当に久しぶりに乗る。アルゼンチン側からラプラタ川の河口を横切ってウルグアイ側に飛ぶ。
　飛び立つとすぐにラプラタ川に差しかかる。それからずっと川岸に平行に飛ぶ。雲が出ているため時々

ブエノスアイレス上空

モンテビデオ上空

景色が途切れたが、のどかでとても美しい景色だった。
　モンテビデオにはプロペラ機でもわずか５０分で着いてしまう。入国審査はごく簡単だった。長い列ができるわけでもなく、アッという間に手続きが終わりウルグアイに入国した。
　ガイドブックによれば市内までタクシーは４，０００円と高いのでバスで行くことにする。最初よくわからなくて２台乗り逃がして３台めでやっと乗ることができた。ある人は中心街まで行くと言い、ある人は行かないという。どうしようか迷ったが、とにかく乗ってしまえ！ということで乗った。

モンテビデオ空港（市内へのバス乗場）

　乗ったのは路線バスで、人を乗せたり降ろしたりしながらのんびりとしたペースでモンテビデオ中心部に向かう。市街地に入ったが、どこで下りればいいのか判断がつかない。満員だった客はほとんど下りてしまい私以外一人になってしまった。中心街らしきところを過ぎて、あまり行き過ぎるとまた戻ってくるのが大変なので、最後の人が下りるのと一緒に下りた。
　ここからホテルまではタクシーで行く。
交差点のところに立って来たタクシーを止めて、ホテルアメリカ、Rio Nergo1330 と伝えるとすぐにわかって、５分ほどでホテルに着いた。
　バス４０ペソ，タクシー６０ペソで合計１００ペソ、日本円で約５００円だった。このようにバスをうまく使えばとても安上がりになる。ホテルアメリカはとても立地条件のいい場所にあった。Avenida 18 de Julio（アベニーダ１８・デ・フリオ：７月１８日通り）に面し、市街地のほぼ真ん中に位置している。

モンテビデオ中心部

ガウチョの像

　チェックインはスムーズにいき、ホテルの部屋に落ち着いてやっと一息。ホテル予約サイト Booking.com はとても便利な予約サイトで、本当にお世話になっている。３０分ほどで身支度して、街の中心部を７月１８日通りに沿って歩いてみる。

すぐにカガンチャ広場に出てさらにしばらく行くと立派な市庁舎があった。その少し先にガウチョの像がある。今度は昼食を食べるためガイドブックを見ると、この近くに中華レストランがあることが分かった。

ところが探してもわからず、訊くと昨年の３月で閉店してしまったという。確かに入り口のドアが閉められていた。仕方ないのでイタリア料理の店に入りパスタを注文。ラビオリにミートソースをかけたような料理で、最初はよかったが単調な味で量が多く全部食べることはできなかった。

次は海に行ってみる。７月１８日通りをまっすぐに進む。この道は歩行者天国になっていて、モニュメントがあったり公園があったりでそのまま行くと突端に着いた。海岸には堤防があり市民が釣りをしていた。近づいて見ると１０センチほどのイワシだった。

モンテビデオまで来て、市民が釣りをしているのを見るのも、何かいいなぁと思う。

モンテビデオ湾の方向に大きく迂回して、荷揚げ港を左に見ながらずっと歩く。港湾管理局の立派な建物があったりして、ここが首都であることを再認識した。

モンテビデオの街を歩いていると、国の機能が狭い範囲にギュッと詰まっていることがわかる。

しばらく歩き右に入るとまたもと来た道に出た。小さなスーパーに入り買い物。ウルグアイの物価はアルゼンチン（メンドーサ）に比べて少し高めのようだ。

歩くと中心部はそれほど広くなく、隅から隅まで歩いても大した距離でないことがわかった。

これまでチリ北部やメンドーサなど乾燥した街を歩いてきたが、ここは海に近いせいか蒸し暑い。

時々雨も降って来る。買い物の荷物を持って歩いたので汗だくになった。どんなに暑くとも日陰に入ればサラッとする地域が懐かしい。でもこれからすぐに寒いパタゴニアに向かうことを考えると、その前の束の間の蒸し暑さも良いのかも知れない。モンテビデオはアルゼンチンに対しさらに時差が１時間あり、時計を１時間進めた。今時計は夜の８時４０分を指しているが、外はまだ明るい。日本でいうとちょうど夏の

モンテビデオ中心部（カガンチャ広場）

モンテビデオ中心部

恋人どうしが二人のイニシャルを刻んだカギをこの噴水に結んでおくと結ばれる、、、（多分　説明文の最後の部分がカギに埋もれて読めない！）

独立広場（中央はサン・マルティン像）

独立広場（後方はサルボ宮殿）

夕方６時半というところだろうか。
明日はモンテビデオ市内をゆっくりと余裕をもって見て回ろう。

ラプラタ川の河口で釣りをする人々

街を歩いていると腹の出た人が多いのに気付く。
チリ，アルゼンチンそしてウルグアイも、やはりこれは食べ物のせいだろうか？若い女性も結構腹が出ているが、それでも彼女たちは意に介さず、大らかに堂々と街を歩いている。
顔を見るとそれほどでもないのだが、下半身を見るともう少し何とかならないの？と思ってしまう。

モンテビデオ中心部（ソリス劇場）

街には両替商がとても多い。空港では１００ドルが１，９００ペソ（ウルグアイ・ペソ）だったが、市内では２，２３０ペソであり１７パーセントもレートが違う。空港での両替は最小限にとどめておくのが無難だ。しかも空港ではパスポートを見せたり面倒な手続きが必要。まあ偽札を掴まされる心配はないが。
これで南米は、コロンビア，エクアドル，ブラジル，ボリビア，パラグアイ，チリ，アルゼンチン、それに今回ペルー，ウルグアイが加わって９ヶ国になり、あと行っていない国はベネズエラだけになった。（但しガイアナ，スリナム，仏領ギアナは除く）今、やっと日没を迎えてウルグアイ時刻で９時である。

■２０１４年２月２０日（木） モンテビデオ

７時に目覚める。外を見ると道路が濡れているので雨が降ったようだ。
８時半、朝食に１階レストランへ。狭いレストランは客で満員。ブラジル人やスウェーデン人などのグループだ。ここは日本から最も遠いが、ヨーロッパ諸国からは大西洋を越えればすぐなのだ。
メールのチェックなどをして１０時にホテルを出る。
今日は市内をのんびり見て回るつもりだ。
海岸線に沿ってずっと歩いてみる。
今日は曇り空で未明の雨のせいか涼しい。税関前の市場に入ってみると、市場というよりはパリジャーダ（豪快な焼肉）をする店の集まりだった。
時刻はちょうど１１時、まだ早すぎたようで客は入っていない。訊くと１２時からだとのこと。
今は肉を網に乗せて焼いているところだ。大きな肉の塊なので焼くのに相当時間がかかるのだろう。ものすごい炭火の火力で離れていてもその熱気が伝わって

海岸線に沿って歩く

くる。しばらくしたらもう一度来ることにしよう。

少しずつ晴れ間が出てきて、今日も暑くなりそうな気配だ。公園のベンチでのんびり時間を過ごしていると、野生のインコが鳩に交じって餌の奪い合いをしているのが目に入った。緑色の大型インコで、無言の鳩に比べて大きな声で鳴きながら地面の餌をつついている。人が通りかかると鳥たちは素早く逃げて、しばらくするとまた戻って来る。

フェリーターミナルと税関

時々上空に舞い上がっては樹上に止まって休んでいるようだ。野生の生き物はみな逞しい。

そのすばしこさと運動能力の凄さにしばらく見とれていた。現地ツアーばかりでなく、市内でのんびりする一日もいいものだ。

セーロ要塞からの眺め（モンテビデオ湾）

次にセーロ要塞に行ってみよう。ガイドブックによればここは治安が悪いのでタクシーで行くのが良いと書かれていた。流しのタクシーを止めセーロ要塞に行くように頼む。向かう途中「向うでタクシーは拾えるか？」と訊くと、電話で呼べばいいという。

しかし私は電話で呼ぶことはできないので、現地でしばらく待ってくれるように頼んだ。

セーロ要塞はモンテビデオ湾の一番奥にあり、車で行ってもかなり遠かった。要塞のあるこの丘は海抜わずか１３０ｍほどだが、湾のカーブが見渡せてとてもいい景色だ。

丘の頂上にある軍事博物館の敷地内に入って写真を撮っていたら入場料を取られてしまった。四方全周の景色を楽しんで１５分ほどで車に戻る。この辺りには人は誰もいなくて、これではタクシーに待ってもらわなければ帰れない。結局タクシーをチャーターした形になって案内も一緒にしてもらった。

帰りはパリジャーダだと伝え、さっきの市場に連れてきてもらった。

パリジャーダの店が集まる市場

炭火で豪快に肉を焼く

時刻は１２時半を回り、すでに多くの客で賑わっていた。ここは観光客がウルグアイ名物のパリジャーダを楽しむスポットなのだ。メニューがよくわからないが、とにかくアサードを注文。

出て来たのはスペアリブステーキで、もう最初から全部食べるのは無理だと思った。これが３２０ペソ（約１，６００円）である。冷たいビールを飲みながらステーキを黙々と食べた。

アサード

席に座っているだけで炭火の熱が伝わってくるので、近くで肉を焼いている人の熱さは大変だろう。でも彼らは楽しそうに笑い

ながらやっている。
　食べ終わった皿はそれ専門の下働きの人がいてすぐに片づけて洗う。スペインやイギリスに統治されていた国では、働く人のランクが決められている。清掃，皿洗い，公園や道路の整備や補修は最下層の人々の仕事と決まっているのだ。その最も顕著なものがインドのカースト制度だ。
　アサードは頑張って２／３ほど食べて残りはお手拭きの紙に包んで持って帰ってきた。全く野菜を食べずに肉ばかり食べたので、ずい分血液が酸性になったことだろう。
　市場を出てのんびり歩きながら途中で水とワインを買ってホテルに戻ってきた。今日はこのあとホテルでのんびり骨休み。

■２０１４年２月２１日（金） ブエノスアイレス

　予定していた１ヶ月のちょうど半分が過ぎた。今日は８時の便でブエノスアイレスに行く。昨日は夜８時ころに眠ってしまい一旦１０時半ころに目覚めた。
　しばらくガイドブックでブエノスのことを調べて、もう一度寝て起きたのが午前 4 時だった。ここでもう一度寝ると寝過ごしてしまうのでそのまま起きてしまった。
　５時半にホテルをチェックアウト。２泊分で１１２ドルはリーズナブルな料金だった。フロントの料金表にはシングルルーム９０ドルと掲げてあり、Booking.com で予約したら安く泊まれた。
　ホテルからタクシーに乗ると、空港は市外だからメーターではなく９００ペソ（約４，５００円）だと言われた。早朝のタクシーだから仕方ないが、旅行者の足元を見た値段の押し付けに腹が立った。この国の物価で４，５００円は相当高価な料金である。
　時速平均５０～６０ｋｍのスピードで３０分ほどかかったので、市内から３０ｋｍくらいの遠距離ではある。昨日空港から市内に入るときはちょうど昼頃だったのでバスで来られたが、早朝や深夜はどうしようもない。こんなにタクシー代が高いのなら、飛行機より高速フェリーの方が時間的にも値段的にも良かったのかも知れない。空港と違い、フェリーターミナルは市の中心部に近いので移動コストがかからない。ウルグアイにはもう来ることはないだろうから持っていた１，０００ペソをドルに交換、４２ドルだった。

モンテビデオ 空港ターミナル

　今日もラプラタ川の上には雲がかかっていたが、河口の輪郭を見ることができた。サンドイッチとスナック、コーヒーの朝食を取った。わずか５０分のフライトなので慌ただしい。

モンテビデオ→ブエノスアイレス

　この飛行機はエセイサ国際空港ではなくアエロパルケに着く。アエロパルケは市街地に近いので助かる。
　空港でドルをアルゼンチンペソに交換する。ウルグアイで交換した４２ドルと手持ちの５７ドル合計９９ドルを差し出すと、４２ドルの中に入っていた１０ドル札にボールペンで書き込みがあり、交換してもらえなかった。こちらの渡した札を、新札まで穴の開くほど良く調べるのは偽札が多いせいだろうか？
　でも向うがくれたペソの中に１枚落書きしたものがあった。後で気付いたのでどうしようもなかったが、そのとき気付けば“これは受け取れない”と突っ返してやりたかった。旅行者に通貨でこんな不快感を与えることは、決して良いとは言えないので改めて欲しいものだ。
　空港からホテルまではバスとタクシーでうまく組み合わせて行こうと思い、訊くと３２番と４５番のバ

スが市内に行くという。４５番のバスが来て乗る時に１００ペソ札を出すと、その札は使えないとか大きいバッグはバスには乗せられないなどと２度も乗車拒否された。

これではタクシーで行くしかないと思っていたところにうまい具合に、“タクシー？”とおじさんが声をかけて来たので、そのタクシーに乗ることにした。

すぐにバッグを持ってくれて車に積んだ。チョッと調子がいいな、と思う間もなく乗せられて走り始めた。ホテルはレコンキスタ通り５４６のラファイエットホテルと告げた。

運ちゃんは調子の良いおじさんで、鼻歌交じりの運転で何か少し怪しいと感じた。メーターの上がり方が異常に早い。１５０ペソくらいでホテルに着くと思っていたが、何とホテルに着いた時にはメーターは２７６ペソにまでなっていた。ホテルに着くまでに少し渋滞があり２５分ほどかかったが、それで２８０ペソ（3，９００円）とは高すぎる。

“メーターの上がり方が凄く速かったよ！”とクレームしたが“いや、そんなことはない”と相手にされなかった。しかしどうにも納得できなかったので車をホテル前に待たせ、ホテルのポーターに、

私　“今アエロパルケからここまで来たのですが、タクシーでここまでいくらくらいですか？”

ポーター　“１２０～１３０ペソくらいです”

私　“今乗ってきたタクシーはメーターが２８０ペソになったのですが”

ポーター　“それはおかしい”

ポーターは、私にホールの中で待っていなさいと言って、タクシー運転手と掛け合ってくれた。

運転手とは少しもめていたが、ポーターは強硬に抗議して、私から１２０ペソを受け取り運転手を追い払ってくれた。助かった。どうも最初から愛想が良くて調子良すぎると思っていたのだ。

メーターだから安心しろと言っていたが、メーターに細工がしてあったのである。

ポーターには丁重にお礼を言った。チェックインまでまだ１時間ほどあるので、荷物を預かってもらい街を歩くことにした。

ブエノスアイレスは今回で２度目である。前に来た時は1，９９２年なので２２年前になる。その時は私の会社に研修生として来た、ブエノスアイレス在住の日系二世Ｋさんのご両親（沖縄出身）にお世話になった。ブエノスアイレスの市内観光，ラ・プラタ博物館，タンゴレストラン「エル・ビエホ・アルマセン」などに連れて行ってもらった。**（別紙参照）**

メトロポリタン教会

５月大通りに面したカフェ

大統領府

ラファイエットホテルはレコンキスタ通りとラ・ヴァージェ通りの交差点にあり、ダウンタウンの中心に近いところでとても便利である。チェックインまでの間、周辺を歩いてみた。

Plaza de Mayo（プラサ・デ・マヨ：５月広場）の大統領府からAvenida de Mayo（アベニーダ・デ・マヨ：５月通り）を北上し、Avenida９ de Julio（アベニーダ・ヌエベ・デ・フリオ：７月９日通り）を東に向

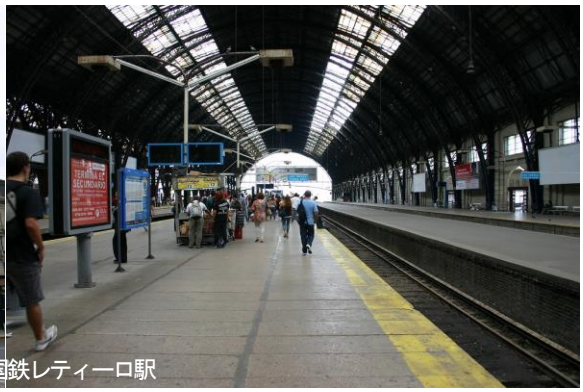
７月９日大通り

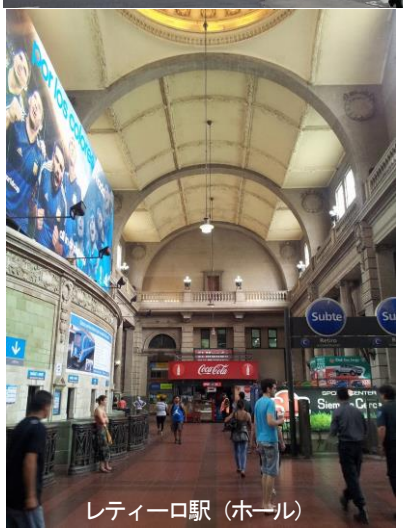
コリエンテス大通りに面したオペラ座

かうとブエノスアイレスのシンボルオベリスコがある。
　オベリスコから南に折れ、コリエンテス大通りを南下するとホテルに戻る。

ブエノスアイレスのシンボル オベリスコ

　ブエノスアイレスは南米のパリと言われるだけあって、瀟洒で重厚な建物が多い。道路は何車線もあり広いが車の量も多い。人々は赤信号でも、スキがあれば平気で渡るので車の方は大変だ。
　南米は人が優先のようで、運転手は青信号でも注意しなければならない。ある程度ブエノスの感じが蘇ってきた。ホテルにチェックインし一息ついで１１時半ホテルを出る。
まずレティーロ駅を目指す。アルゼンチン国鉄のターミナル駅はどんな感じだろう。ホテルから真っ直


アルゼンチン国鉄レティーロ駅



レティーロ駅（ホール）

ぐ進むと大きな鉄道ターミナル駅が見つかった。光は天井の明り採りから入るだけなので内部は薄暗い。
　案内板を見ると列車の本数はあまり多くないようだ。やはり交通の主体はバスに移ってしまったのだろう。
　次に地下鉄レティーロ駅からＣ線に乗ってインデペンデンシア駅に行き、そこから歩いて日本人会館にある Comedor Nikkai（コメドール・ニッカイ：日会食堂）に日本食を食べに行く。
　地下鉄はチリと同じように磁気カード（３．５ペソ）を買い、ゲートに通して棒を回転させてホームに入る。あとはどこで下りても料金は変わらない。
　レティーロ駅から６つ目のインデペンデンシア駅で下りて日本人会館に着いた。ところがガイドブックを良く見れば良かったのだが、金曜日は夜しか営業しないことになっていた。

残念！と思ったが、せっかく来たのだから写真だけでも撮って帰ろうと会館の中に入ったのが正解だった。

ドアは閉まっていると思ったが押すと開いたのである。営業していた！これで久しぶりの日本食が食べられる。中では多くの客が昼食を食べていた。

日本人会館 食堂

在照日本人会々館

日本人らしい顔もちらほら見えるが、ほとんどはアルゼンチン人だ。板前は５０歳くらいの日本人とアルゼンチンの若者だった。厨房には何人かのおばさんがいるのだろう。

日本人とアルゼンチン人女性、二人のサービス係がいて勿論スペイン語で会話する。トンカツと寿司、味噌汁の定食を注文。久し振りにソースでボリュームたっぷりのトンカツを食べた。

たっぷりの量の昼食で満腹になった。昨日もアサードだったので、少し肉の食べすぎか？外に出ると真夏の太陽が照りつけもの凄い暑さ。

ブエノスアイレス 地下鉄

インデペンデンシア駅から再び地下鉄Ｃ線で２駅目のアベニーダ・デ・マヨ駅でＡ線に乗り換え、３駅目のコングレッソ駅で下りムシ・ムンドというＣＤ，ＤＶＤショップに行ってみる。特に目当てはなかったが、タンゴやフォルクローレのＣＤにどんなものがあるか見たかったためだ。ロス・ノチェーロスのＣＤも３枚くらいあった。メンドーサが地元というが、聞いた通りアルゼンチン全土に名が通ったグループということが確認できた。

足にマメができてしまったようで痛い。ここからカジャーオ駅まで歩き、帰りはＢ線に乗ってホテル最寄りのフロリダ駅に戻る。

これでブエノスの地下鉄もよくわかった。それにしても、空港タクシーに比べたら地下鉄の安さ。１回乗るのに５０円足らずだ。

ホテルでゆったりと風呂に浸かり汗を流す。しばらくは部屋でのんびり過ごす。

夜はエル・ビエホ・アルマセンでタンゴだ。迎えのバスは９時に来た。このホテルが最初のようだ。その後いくつかのホテルを回り７，８人を乗せて店に着いた。

おぼろげながら、前回来た時の建物の外観を思い出した。まだ、ほとんど客はいなくて一番乗りだったようだ。席はかなり後ろの方だったが、当日の予約なのでやむをえないだろう。

以前に私が来てから一度閉店となり残念に思っていたが、再開されたことがとても嬉しい。その時は２階席から観たのだった。舞台も記憶に残っていて、改装したようには見えなかった。

徐々に客が入ってきて、ほとんどが団体旅行で来ている人のようだ。英語，フランス語，ポルトガル語も聞こえて、みんな観光客ということが分かる。

席にシャンパンが運ばれ、飲みながら開始を待つ。

初めにスクリーンで「エル・ビエホ・アルマセン」

エル・ビエホ・アルマセン開演前

の歴史が放映され、続いてショーが始まった。踊りとキンテート（五重奏）の演奏と歌が２～３曲ずつ入れ替わる。

男女の踊り

女性歌手

踊りは男女４人ずつで、ダイナミックなタンゴ独特の感情激しい踊り。ショー的な要素が強く、最後のキメポーズの奇抜さを競っているようだ。

タンゴの踊りは、なぜそこまで足を絡ませるのかと思うほど複雑な動きだ。アルゼンチンはスペイン人とイタリア人主体の移民の国だが、タンゴはどちらかというとイタリア人のエッセンスが入っていると思う。

歌は女性歌手と男性歌手が一人ずつ。女性歌手の方はそれほどではなかったが、男性歌手の方は声といいアクションといい素晴らしいエンターテイナーだった。

キンテートはバンドネオン２，バイオリン，ピアノ，コントラバスで、楽器を打楽器としてもうまく利用しているところはフラメンコと同じだ。特にコントラバスの弓さばきは、滑らかで時に激しく時にコミカルで引き込まれてしまう。本当にプロだなぁーと感心する。

踊りが一番華やかなのでどうしても注目が集まりやすいが、私としてはバンドの演奏が一番面白かった。前回はもっとバンドの演奏が多かったように思う。どんどんショー化していって、華やかな踊りが多くなり踊り手の人数が増えたのだろう。中間にフォルクローレのグループが出てきたのには驚いた。

タンゴを聴かせる店にフォルクローレは面食らった。しかし客の方は、むしろフォルクローレで盛り上がっていた。何でも楽しければいいということか？

終演後

席の最後尾のブラジル人グループの話し声が演奏中も煩くて、もっと真面目に音楽を聴いて欲しかった。このような状況はフラメンコを聴かせるタブラオでも同じで、ある程度の話し声は仕方ないが、このブラジル人グループは話に夢中で音楽を聴きに来たようではなかった。

前よりもずっとショー化していてタンゴを聴くというよりは、タンゴショー，フォルクローレショーを楽しむという感じ。ともあれ中間にフォルクローレ５曲を挟んで、１０時から２時間たっぷり楽しませてくれた。帰りは往きと同じようにバスでホテルまで送ってもらい、余韻に浸りながら帰ってきた。